

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援／放課後等デイサービス Olinace おゆみ野第2		
○保護者評価実施期間	2024年 11月 5日 2025年 1月 27日 ～ 2024年 11月 30日 2025年 2月15日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	41名 40名	(回答者数) 32名 27名
○従業者評価実施期間	2025年 1月 27日 ～ 2025年 2月 8日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 28日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	脳科学理論をもとにした運動療育	・「動」と「静」のセットでメリハリを意識 「動」と「静」の組み合わせで脳と体が成長し集中力を身に付けます。脳と体は相互関係にあります。体を動かすと脳（前頭前野）が活性化し、集中するために必要な脳の領域が元気になります。「動」と「静」の活動を交互に繰り返すことにより、興奮を瞬時に抑制する力が高まります。動と静のメリハリで、より強い抑制力を育てるため、結果的に集中する力が身に付きやすくなります。 ・数分ごとにあそびを変えて脳を刺激する 脳の様々な力を切り替えながら行うことで、楽しく能力を育てることが出来ます。また、子どもも飽きずに続けられるため、集中力も鍛えられます。 ・ストーリーやイメージと運動がセットになっている ハイハイをするだけでも「犬さんみたいに歩こう」など、イメージさせて体を動かすことで想像力を鍛えます。	定期的な運動研修の実施やアレンジした運動プログラムの共有
2	自主性の心を育て、他者への気遣いが出来る	事前にメインとなる活動時間を伝えることで、子どもたち一人一人がやりたいこと（勉強や自由遊びなど）を考えて過ごせるようにしている。 その中で順番を守って物の貸し借りをするなど、他者の気持ちに気付き仲良く過ごせるようにしている。	メイン活動までの時間を多く取れるように配慮していく。また、他者より良く関わられるような活動やイベントをどんどん取り入れていく。
3	少人数療育での手厚い支援	・専門職（保育士など）を配置しており、専門的視点で個別、集団支援が出来ている。 ・一日の利用人数も少人数のため、その子に合ったより良い支援を行っている。	さらに個々に応じた支援の充実が図れるように工夫し、子どもたちや保護者様に「ここに行きたい！」「預けたい、行かせたい！」と思ってもらえるようにしていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者様のニーズに合わせた時間での送迎が出来ていない	同じ時間帯に送迎が集中してしまうため。	近隣のOlinaceおゆみ野と協力をして送迎を行い、保護者様の要望に沿えるようにしていく。
2	保護者様に対する支援（面談など）が出来ていない	事業所内で行う活動を優先していて、保護者様とゆっくりいろいろなお話が出来ていないため。	面談週間を作るなど、保護者様とたくさんお話が出来るようにしていく。
3	職員の入れ替わりがあり、不安に思っている子どもたちや保護者様もいるのではないかな	職員のキャリアアップのための異動等があり、新しい職員が入ったため	保護者や利用児童とのコミュニケーションをとり、安心して通っていただけるよう努めていく。